

第4回 SPARC Japan セミナー 2014

---

# グリーンコンテンツの拡大のために 我々はなにをすべきか？

平成27年3月9日(月)

13:00－17:00

国立情報学研究所

千葉大学附属図書館  
三角 太郎

# 企画WG

---

南山 泰之（国立極地研究所）

堀井洋（学術資源リポジトリ協議会）

三角太郎（千葉大学）

# 本日の趣旨

---

オープン化推進機関・図書館関係者・学術研究者などを交えて、今後の多様な学術情報流通に関する議論をおこない、日本の将来における**学術資源のオープン化**のイメージを広く共有するとともに、リポジトリ等による**学術資源管理の具体的な道筋**を探りたい

# 学術資源のオープン化

---

学術研究活動の中で生成された学術資源のオープン化は、学術研究の促進目的ばかりでなく、社会的要請からも求められてきている。

# 現状

---

○学術研究分野(理工・人文など)や機関・組織(大学・博物館・自治体など)が異なると、オープン化に対する認知や動機・普及状況にも大きな差異がある。

○多くの機関・組織では、一つの機関内で生成された学術資源が複数のリポジトリ等のシステムに散在している。

→組織的なオープン化推進のためには括的な管理体制モデルの構築は急務

# グリーンコンテンツとは

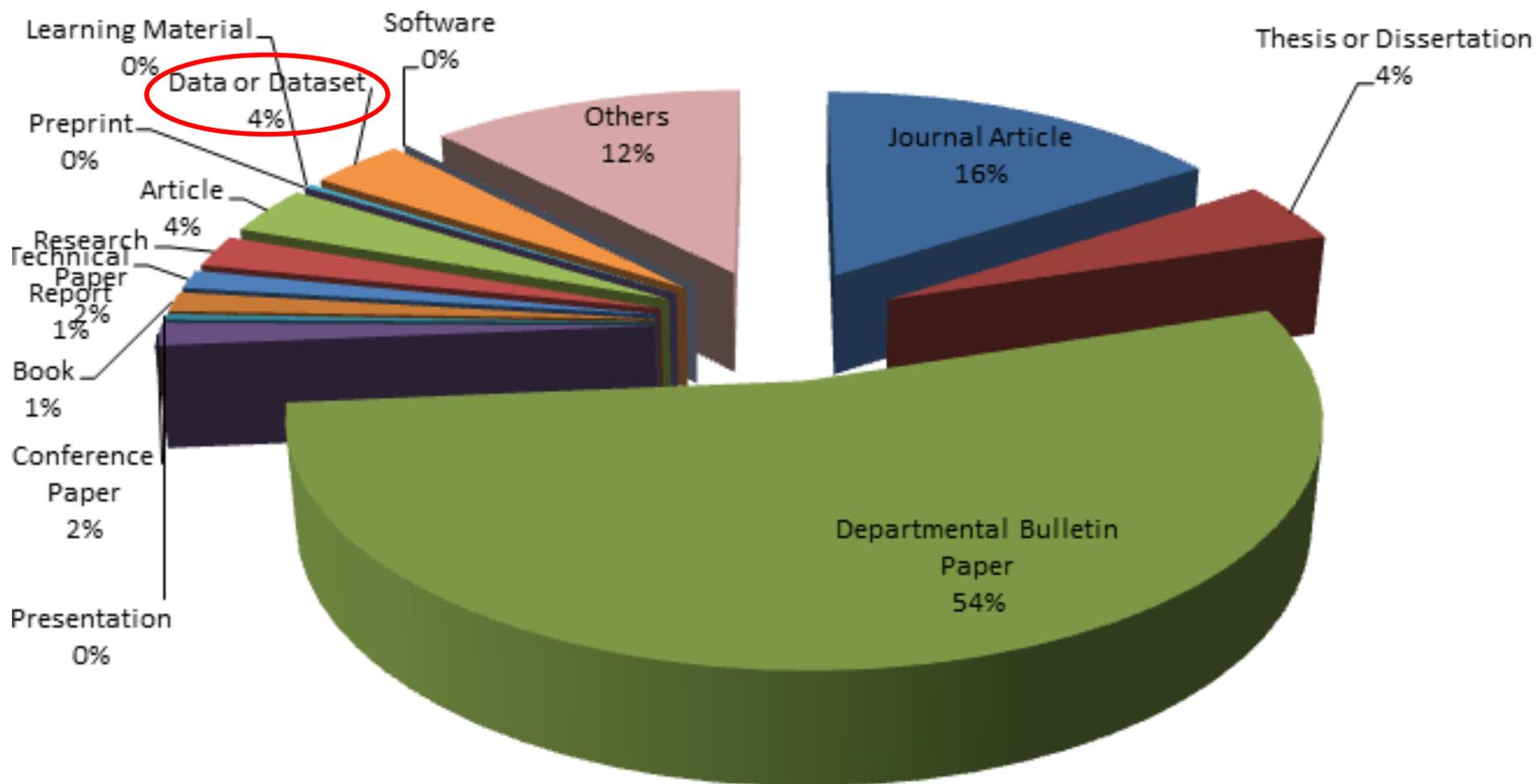
---

学術研究機関が機関リポジトリ等において公開・発信するオープンな学術コンテンツを“**グリーンコンテンツ**”とし、研究データ、博物館資料に関するメタデータ及び資料画像データ等も視野に入れた多様なコンテンツとして、**本セミナーでは定義させていただきますい！**

# IRDBによる分析

|   | author<br>(著者版) | publisher<br>(出版者版) | ETD    | none<br>(その他) | 計       |
|---|-----------------|---------------------|--------|---------------|---------|
| <b>Journal Article (学術雑誌論文)</b>           | <b>28,916</b>   | 164,385             | 0      | 495           | 193,796 |
| Thesis or Dissertation (学位論文)             | 20,311          | 14,247              | 11,526 | 0             | 46,084  |
| <b>Departmental Bulletin Paper (紀要論文)</b> | <b>34,025</b>   | 504,885             | 0      | 1,143         | 540,053 |
| <b>Conference Paper (会議発表論文)</b>          | <b>2,489</b>    | 16,086              | 0      | 111           | 18,686  |
| Presentation (会議発表用資料)                    | 2,396           | 2,037               | 0      | 258           | 4,691   |
| <b>Book (図書)</b>                          | <b>700</b>      | 6,502               | 0      | 4,956         | 12,158  |
| Technical Report (テクニカルレポート)              | 958             | 9,985               | 0      | 45            | 10,988  |
| Research Paper (研究報告書)                    | 3,695           | 18,333              | 0      | 578           | 22,606  |
| <b>Article (一般雑誌記事)</b>                   | <b>4,541</b>    | 16,094              | 0      | 38            | 20,673  |
| Preprint(プレプリント)                          | 278             | 25                  | 0      | 14            | 317     |
| Learning Material (教材)                    | 626             | 1,886               | 0      | 538           | 3,050   |
| Data or Dataset(データ・データベース)               | 27              | 51,954              | 0      | 71            | 52,052  |
| Software(ソフトウェア)                          | 23              | 5                   | 0      | 0             | 28      |
| Others (その他)                              | 8,759           | 77,995              | 0      | 13,991        | 100,745 |

# IRDBによる分析



# テーマ

---

**コンテンツの多様化**  
**のために**  
**我々はなにをすべきか？**

---

決起集会

# 二つのアプローチ

---

## 1) 最初に研究ありき

→ 最終的な研究成果物である論文があつて、その添付物としての研究データがある

## 2) 最初にデータありき

→ 博物館標本の画像・計測データとか観測データとか、まずはデータがあつて、それがみな論文になっているとは限らない

# アプローチ1

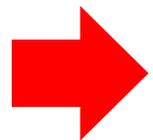
---

## 1) 最初に研究ありき

→ 最終的な研究成果物である論文があつて、その添付物としての研究データがある

図書館員にはわかりやすいアプローチだが、しかし、いつまで論文が最終的な研究成果物であるかもわからない。研究データ流通の構造そのものが大きく変わろうとしているのでは？

武田先生



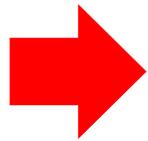
「機関リポジトリとDOI: 研究データ流通を支える情報基盤とは」

# アプローチ2

---

## 2) 最初にデータありき

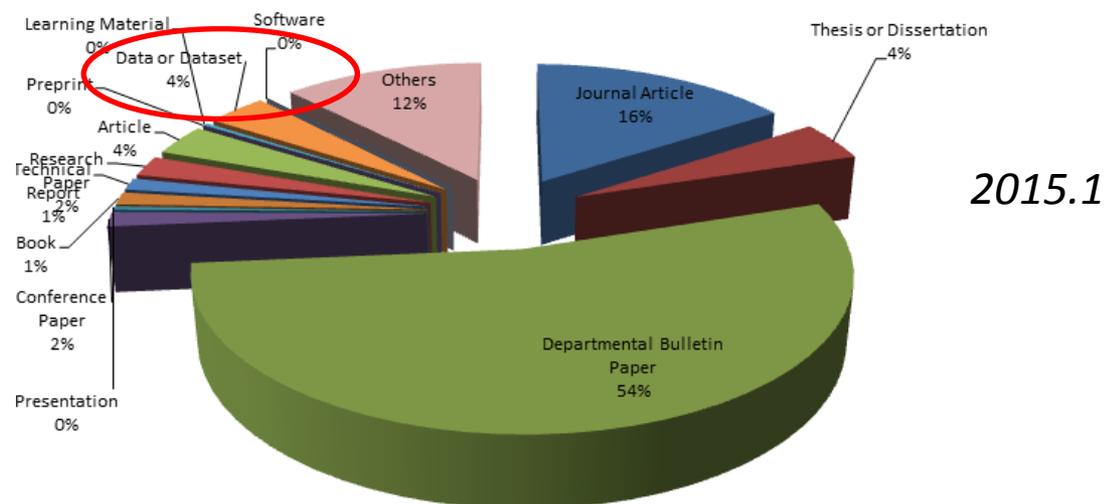
→ 博物館標本の画像・計測データとか  
観測データとか、まずはデータがあっ  
て、それがみな論文になっているとは  
限らない



山下先生

「大学博物館における学術資料情  
報のオープン化に関する取組み」

# あらためて機関リポジトリの現状はどうなっているのか



日本の機関リポジトリ中のデータ  
そのうち千葉大学のコンテンツ

52,421件

52,223件

**99.6%**

この画像、あなたなら、どう**検索**しますか？

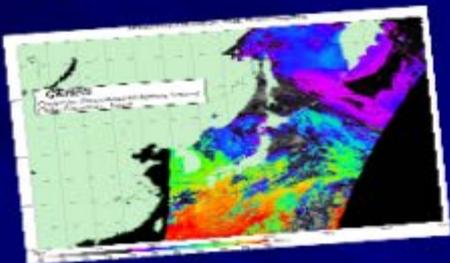


"Data-driven"

データの使い方を利用者に委ねることで研究の可能性を無限に拡げてゆくのがe-Scienceの魅力。

でも、アクセスできなければ、その可能性は眠ったまま。

「最良の検索キーは、利用者が知っている」これが私たちの出発点です。



Folksonomy が、e-Science を変える。

Social Tag が、データに命を与える。

「みんな」で築く e-Science、リポジトリから始まります。

#### 教員と図書館のコラボレーション

2008年、IRコンテンツにソーシャルタグを付与するシステムを開発。



「メタデータから漏れていたキーワードが、タグによって補われていた」

「他のタグからの連想で、新たなタグが付与された」  
実証実験によって確認された効果の一例です。

2009年は「教員と図書館の連携」を図りながら、実証実験を拡大します。

e-Science基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験  
代表機関：千葉大学 / 連携機関：北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学

# e-Science Project

## CSI事業

### 2008～2009年度

実証実験として、コンテンツの作成者側と利用者側のそれぞれの立場から、e-Scienceデータ（主として千葉大学リモートセンシング研究センターの衛星画像）へ試行的にメタデータを付与できる環境を用意し、そのメタデータの評価をとおして、異種データの格納が可能なユーザコミュニティの需要に応えるメタデータ形式の検討を行い、人類の知的生産物の管理ツールとして機関リポジトリが位置づけられることをめざす。



# みすみの感想

---

千葉大に異動してくるまでこのコレク  
ションの存在を知らなかったが  
これは**良い試み**だと思った

**junii2**(standard metadata format for IR in Japan) dose't have field to input necessary value such as sampling location, sampling date, sample number, sampler , so descript in description field.

アイ : *Polygonum tinctorium* Lour.

#### Description

原著和名: アキ  
科名: タデ科 = Polygonaceae  
採集者: 萩庭丈壽  
採集地: 千葉県 千葉市 千葉大学 (下総 千葉市 千葉大学)  
採集日: 1962/10/8  
整理番号: JH008214  
国立科学博物館整理番号: TNS958214

#### Contributor

萩庭標本データベース作成協力会

#### Type..Chiba

Dataset(Haginiwa)

#### Format..IMT

image/jpeg

#### Identifier..URL

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00061134>

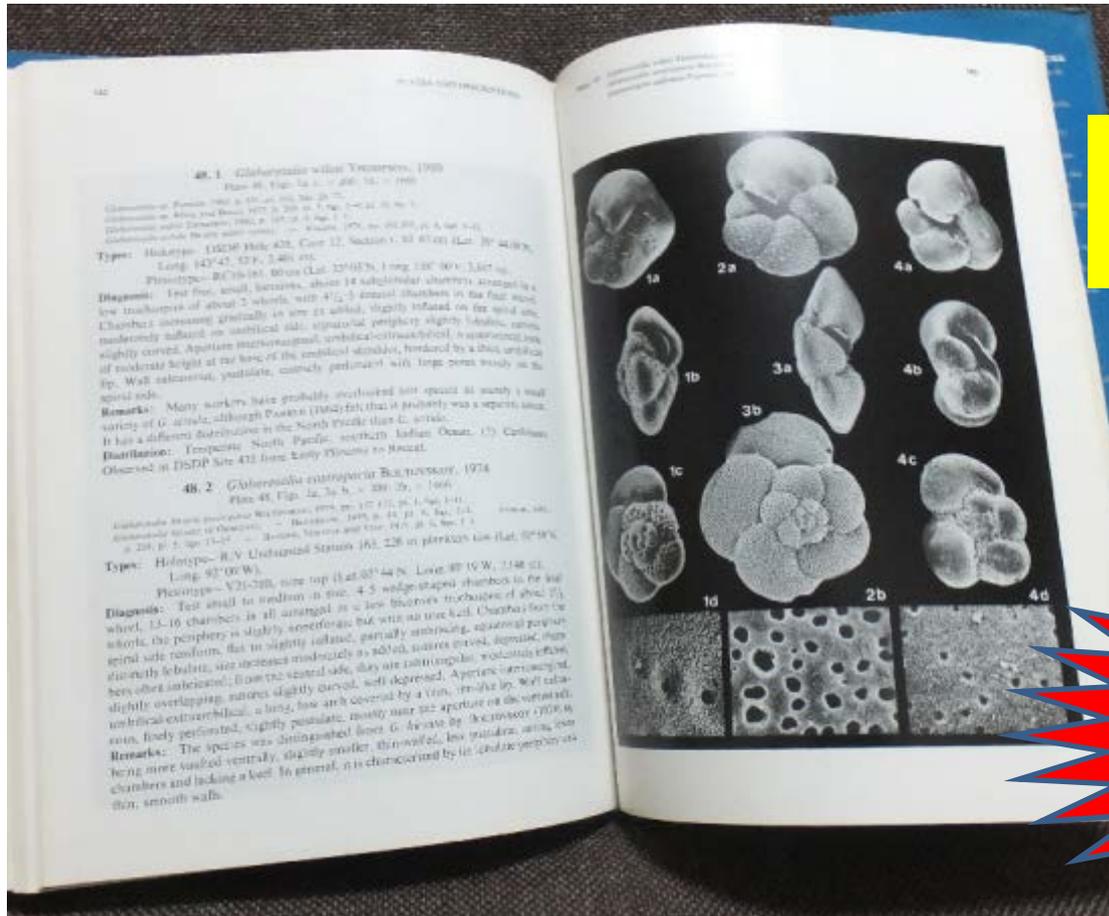
#### Identifier..ImageURL

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/haginiwa/jh008001-008500/JH008214.jpg>



この辺が不満なのでデータ移行時に対応したい

# みすみは大学の専攻は地質学古生物学



図録を参照し  
種を同定する。

こういう図録が  
オープンになって  
いるとありがたい

Systematic index of recent and pleistocene planktonic foraminifera

/ Tsunemasa Saito, Peter R. Thompson and Dee Breger, University of Tokyo Press, c1981, 190 p.

# 植物標本を見て思ったこと

---

標本写真がオープンになって、記載事項の検索もできるようになると**有用なツール**になると思う(研究にも教育にも)。

→ **地質学**とかの**博物学**以外でもオープンにすると**有用なリソース**はたくさんあるのではないか？

# リポジトリの可能性

---

図書館員はリポジトリの可能性をどこまで理解しているのか？リポジトリがどのように使われるのかわかっているのか？論文にこだわりすぎではないか？

→ ささやかなみすみの経験から考えてもリポジトリはもっと有用なツールになるポテンシャルがあると思う。

# 研究者マインド

---

図書館員は**研究者マインド**が  
わかっているのか？  
→これが重要なポイントの  
ように考えはじめている

# 図書館員は？

---

欧米のサブジェクトライブラリアンは研究者マインドがわかっているのではないか？

→ もしかして日本の  
ウィークポイント？

# 図書館員は？

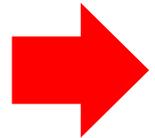
---

日本でサブジェクトライブラリアンは困難であるが、せめて**理系出身の図書館員**（どれぐらいいいるのかわからないが）の参画をもとめたほうが良いか？

# 図書館はなにをすべきか？

---

いろいろ思うところはあるけれど、まずは**現状**をおさえる



南山さん

「図書館によるデータ管理への道筋」